

株式会社 全国商店街支援センター

平成 26 年度 商人塾支援事業

事業報告書（概要版）

平成 27 年 2 月

事業委託先：竹田商工会議所

目次

1. 事業目的	1
(1) 対象地域の背景と課題	1
(2) 目標（塾生の育成像）	2
2. 事業内容	2
(1) カリキュラム	2
(2) 視察研修	2
3. まとめ	6
(1) 活性化プラン	6
(2) コーディネーターの総括（研修のポイント、重点的に指導した点等）	7
(3) 実施機関の総括（成果や新たな課題、今後の活動展開等）	10
(4) 参加者（塾生）の感想・今後の意気込み等	11
(5) その他（成果物・報告事項等）	12

実施機関名：竹田商工会議所（大分県竹田市）

参加商店街：竹田町商店街振興組合・玉来商工振興会

テーマ

- ・城下町竹田の中心市街地、商店街及び個店活性化の具体的なビジョン・プランづくり
- ・玉来商店街の商店街活性化事業の具体的なビジョン・プランづくり



1. 事業目的

(1) 対象地域の背景と課題

竹田市中心市街地は、岡藩の城下町として形成され豊肥地区の中心地として栄えてきたが、昭和30年から40年代の高度経済成長期を境に、人口減少や国道57号線沿への郊外型商店街が展開、モータリゼーションによる購買活動の広域化、商業集積店の開業に伴う買回り品の購買が外へと流出、生活様式の変化などにより、商業を中心とした市街地の経済活動が低迷し、空き店舗が目立つなど危機的状況にある。

これまで中心市街地を活性化させようと様々な取り組みを行ってきたが、町全体での取り組みや、統一感をもった取り組みとはならず、事業ごとの取り組みで終わっている。多くの取り組みは行っているものの、事業ごとで横のつながりを作れず、イメージの統一が出来ていない。また、城下町としての歴史文化の観光資源を十分に活かしきれておらず、観光客は年々減少傾向にあり、観光としても危機的な状況を迎えている。

さらに、新しい観光商品の開発を進めてきたが、既存の竹田の歴史ある文化遺産、観光資源がないがしろにされがちであった。今は地元で愛されているものが売れる時代であるので、今後は地域住民や行政、各種団体等を巻き込んで地域全体でいかに取り組んでいくかが課題である。

本事業で検討する中心市街地には、コミュニティセンターの建設が決まっており、周辺との連携をどうするかも大事な課題である。また中心となる本町通りに空き店舗が集中しておりその解決策が大きな課題となっている。

(2) 目標（塾生の育成像）

商業者の視線で、竹田市の中心市街地の商業活性化の意義や目的を捉え、自ら行動して将来の活性化プランやビジョンを構築できる手法を会得する。

そのために必要な、竹田の歴史的背景や地理的環境、地域特性などを整理・分析し、他地域の中心市街地活性化の様々な事例を学び取ることで、双方を合わせて、しっかりした竹田市の中心市街地活性化のプランに結びつけていけるようにする。

2. 事業内容

(1) カリキュラム

全6回 コーディネーター：逆井 健 氏

(三原市中心市街地活性化協議会タウンマネージャー／商店街よろず相談アドバイザー)

日時	講義テーマ	講師
9月9日(火) 18:00～21:00	空き店舗対策事業及びおもてなし講座の活性化プランづくり	阿部 眞一 氏
10月27日(月) 18:00～21:00	コミュニティビジネスとエリア別活性化プラン作成	小口 英二 氏
11月27日(木) 18:30～21:00	活性化プラン発表に向けたグループ分け及び準備	逆井 健 氏
12月12日(金) 9:00～21:00	商店街の具体的活性化ビジョン・プランづくり研修	富士川 一裕 氏
1月27日(火) 17:30～21:00	情感のあるまちづくりを目指した商店街の活性化ビジョンづくり及びプラン発表	安岡 定子 氏 鳥越 けい子 氏
2月10日(火) 18:00～21:00	各グループの活性化プラン発表	阿部 眞一 氏

(2) 視察研修

テーマ：商店街の具体的活性化ビジョン・プランづくり研修

講師：富士川 一裕 氏

講師プロフィール：

(株)人間都市研究所 代表

視察先：阿蘇市一の宮門前町・熊本市河原町商店街

視察先選択背景

竹田町商店街では空き店舗活用の取組み、中心市街地活性化計画としてまちの駅構想に取り組んでおり、両市におけるまちづくり計画を研修し、今後活かすため選定した。

研修内容・視察目的に対する成果等：

今回の視察地選定においては以下の条件に合致するところとした。

- 1) 民間による建物の利活用の実例が見られる
- 2) 地域住民だけでなく観光来街者にも対応している状況が見られる
- 3) 今後の連携やさらなる研究対象として近隣地域が望ましい

結果、隣県熊本県で、竹田市から国道でつながり商店街活動としての活性化の取組みの見られる阿蘇一の宮門前町と、民間でのリノベーションによる商業活性が顕著にみられ、従前からの建物の利活用なども効果的に取り入れている熊本市内の各地を視察することとした。

研修内容・視察目的に対する成果等：

1) 阿蘇一の宮門前商店街

近年、商店街若手の活性化策が功を奏し、女性客を中心に多くの観光的な来街者を集めている商店街として注目されていて、竹田からは隣県ではあるものの国道 57 号線でのつながりのある地域として、今後の連携も考えられる商店街として視察地の一つにした。

一の宮門前町のメインストリートに参加者全員で、徒歩で往復し視察。統一イメージの業種・店名のわかる看板の設置やバナーやスピーカー、商店街看板などを集中させた街路灯の設置、既存業態を活かしながら観光客に対応させた店舗改修の実例、スイーツを使ったキャンペーンなどについて、コーディネーターの説明などと合わせて、現地での個店ヒアリングなどを実施した。

特に個店でのヒアリングでは、実施している周辺地域との合同のスイーツ

ラリーの実施方法について、まちなみの統一感を出す手法（湧水活用や木製の看板など）について、観光客が増えたことに対応させて従来の業態を観光客対応に変更した手法（文具店の店舗改装について）などについて、直接話を聞き確認することができた。

2) 熊本市内

熊本まちなみトラストの富士川一裕先生に現地案内をお願いし、以下の各地を視察した。

様々な特徴のあるエリア、施設、手法などが視察でき、その要素をしっかりと学ぶことで、いずれもが竹田中心市街地での今後の事業の何かの部分に十分に活かせる先進地視察になった。

（早川倉庫）

まちなかに残る大型の食料倉庫の一部を改修し、イベントホールなどに活用。視察当時にも、今までにない組み合わせの主体者による複合型のイベントが開催されていて、会場を持つと同時に、活用しながらイベントや地域づくりを推進していける団体などの連携を構築することへの可能性も見えた。

（河原町旧繊維問屋街）

旧問屋街を活用して小規模店舗・サービスを低家賃で提供。リノベーションしたり、風情を活かしたままの事業所を構えたりする意欲的な出店者が集中することで魅力ある商業空間として展開。あるものを活かすという知恵や行動力を発揮できる事業者を一つのエリアに集めることでの強みを活かした展開。

（器季家カフェ）

水路まで抜ける古い商家の造りをそのまま活かして飲食店に改修。外観もこのエリアに残る古い町並を活かした形で、4棟の連棟も効果的。

（肥後象嵌光助）

熊本に伝わる象嵌のショップ&ギャラリー。象嵌体験などの観光対応メニューも用意されている。大きな施設でなくても、プログラムの組み方などで地域の特徴的な商品を体験型にも展開可能。

（城彩苑）

熊本城入り口に整備された総合観光施設。熊本城という観光資源を活かし、その入口に熊本の食や産品を提供できる施設を整備、あわせて観光や地区の紹介、文化に触れることのできる場所を設けて総合的な窓口としている。

(現代美術館)

中心商業地区に設置された美術館で、通常の展示ホールだけでなく自由に図書などを閲覧できるコーナーや子供向けコーナーも用意されている。まちなかということもあり開館時間も長い。

(上乃裏一带)

古い民家・空間・施設などを改修して、若手事業者が飲食店などとして活用できるようにした事例を多数視察。繁華街である上通りの隣接地区に集中的に展開されるようになったことで、新たな商業地区になった。同地区内には、取り壊して駐車場化したところ、新築にしてしまっただけで空き店舗のままになっているものなども同時に存在していて、考察の対象になった。

(熊大まちなか工房)

熊本大学が商店街エリア内に構えているゼミ拠点。大学生が中心市街地をテーマとして研究や調査を行い、また地域の事業者や活性化リーダーたちとの交流の場としても活用されている。



3. まとめ

(1) 活性化プラン

1、玉来商店街地区

1) 玉来商店街のビジョン・プラン

玉来地区の商業者による取り組みの紹介

商業者が地域文化と一緒に進めていく意義と目的、今後の構想を紹介

2、竹田市中心街地

1) 人材育成プラン

論語講座や地域文化・偉人などの研究活動の紹介

竹田の風土に根ざした生活・商業様式の研究活動の紹介

『のれん文化』を活用した、町並み活用と小売事業者の商業活性化プランの発表

2) 祭り・食プラン

竹田に古くから伝わる祭礼行事、及びその際に出されていた伝統郷土食の紹介

祭礼行事を軸とした商業者コミュニティの構築や地域商業の活性化構想

竹田に伝わる食をアピールしていくことでの地域商業の活性化構想

地域の伝統文化・祭礼を日常的に紹介できる施設整備の必要性の提言

3) アートプラン

竹田のアートプロジェクトの概要と活動実績の紹介

外来型アーティスト定着という竹田アートプロジェクトの効果と期待

これまでの活動での成果と課題、今後の地域とのより深い関わり方への提言

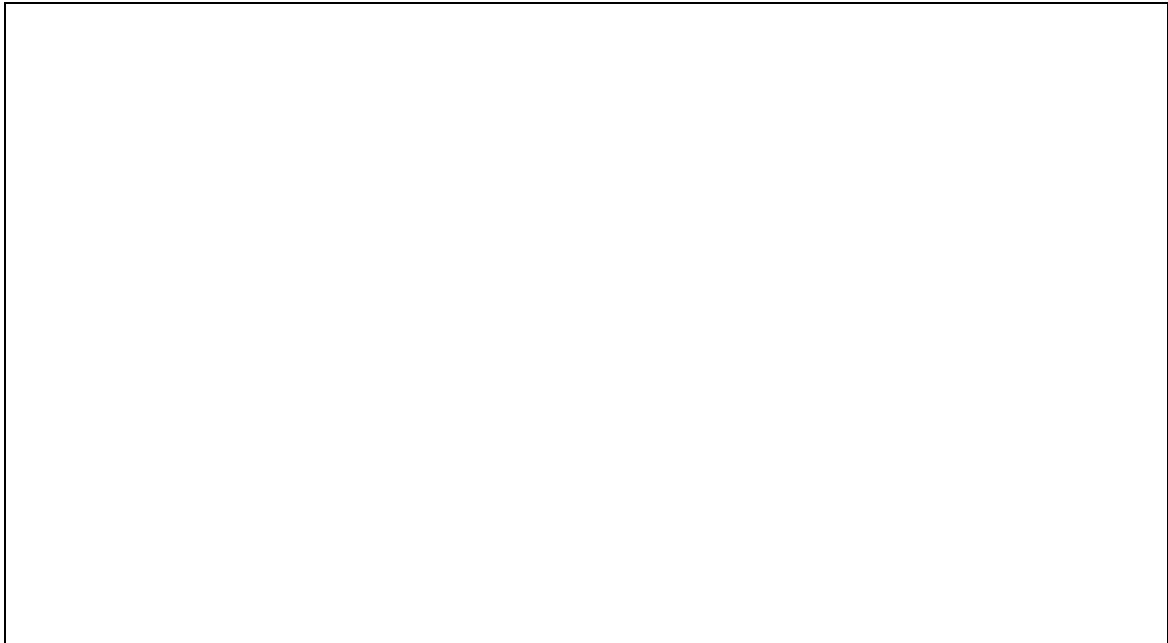
4) まちの駅構想プラン

竹田市中心市街地の活性化の核となる本町地区のビジョン説明

具体的事業としての旧岡本屋の利活用の提言

中心市街地活性化のマネジメントを行う専門組織の設置（まちづくり会社）の提言

本町地区を重点的に活性化事業の取り組み先とすることによる竹田市への効果説明



(2) コーディネーターの総括（本研修のポイント、重点的に指導した点等）

今回の竹田商人塾は、参加者塾生が商人（地元事業者）であることはもとより、それらの事業者の事業展開のベースとなる竹田市の中心市街地が活性化しないことには、商売が成り立たなくなるという危機感への対応も合わせて考えていくものになった。

ちょうど、竹田市では中心市街地活性化の基本計画が策定中ということもあって、中心市街地活性化の大きな柱でもある民間事業の発掘や、民間事業者・プロジェクトなどの推進が求められるところである。

したがって、今回の商人塾は個々の事業展開についての考え方だけでなく、中心市街地活性化という視点も多分に入ったものとなった。

第1回商人塾では、商店街組織というものが主導的に事業展開をしていく場合には、何をして何を考え、どのように実践できるのかという事例を学んだ。

その点では、事務局組織がなくても役員の日常的な取り組みで、商店街に必要な業種を創出し雇用を生み継続的な事業展開をしているという岩村田商店街の事例は大変参考になった。

また合わせて商店街への来街者のニーズ把握をしっかりとやっている点、浮き彫りになったニーズに対してとにかく実践をしていく点などが竹田商人塾塾生にも伝わった。

第2回商人塾では、地方の小規模都市で、中心市街地活性化の一翼を担うまちづくり会社というものが、どのように存在し、どのように地域の中活計画に貢献していくのか。また行政や会議所などとの連携はどのように図っているのかなどを、実証実験的な直営事業などを積極的に展開している岐阜県多治見市のまちづくり会社から総括マネージャーを招いて話を聞いた。

竹田市の中心市街地活性化計画の中でも、会議所や商店街は、事業推進の中核を担うまちづくり会社の事業展開について非常に興味のあるところでもあり、塾生や個々の事業者としてもその役割と、地域や自身の事業との関わりなどが気になる場所だった。

多治見の実例や講師が紹介する他市の状況などから、実践的でしかも地域の中活事業に貢献できるまちづくり会社のあり方というものについて、理解が進んだ。

第3回では、急遽講師の来訪が不可能となったため、コーディネーターが主導し、後半の塾生によるビジョンやプラン作りの基礎的な考察として活かしてもらえるように、改めて参加塾生と一緒に、竹田の資産の洗い出しを行った。

大分の中山間地域にあるということから自然などの特性が確認されるだけでなく、観光地として、また城下町としての文化や住民の心理的な地域性、内外視点のギャップなども再認識することができ、第4回での視察とあわせて、今後のビジョンプラン作成に向けての参考になった。

第4回では、先進地視察で、国道でつながっている隣県熊本県の阿蘇一の宮門前町と熊本市内中心部を視察した。

一の宮門前町は、近年、若手リーダーたちによる商店街活性化の取り組みがめざましく、女性を中心とした街歩きの観光地としても注目を集めるようになった商店街である。

特に、地域の特色である『湧水』を商店街の中に効果的に配置し、自然を全面に出した統一的看板やディスプレイ、阿蘇牛などを活かした食の展開、女性

向けのスイーツの展開などを、商店街規模にあわせた事業規模で、ハードとソフトを融合させている点が目立った。また、観光来街者が増えたことで、従来の業種を変えずに店舗の様子やディスプレイ、商品サービスを変えて対応している数々の事例を目の当たりにすることができ、大変に参考になった。

また熊本市内各所の視察では、今回の視察地それぞれの場所で、今後の竹田の事業に活かせると想定されるテーマや視察目的があり、それらをコーディネーターとしてしっかりと説明した上で見てもらい、さらに事例や内容を直接、体験、確認することができ、あわせて講師や実際の事業者による解説も加えていただいたことで、より理解が深まった。

これらの商人塾を踏まえて、第5回・第6回では、研究発表の場と準備段階と本番とした。

第5回商人塾では、延期になっていた商人としての精神性、地域活性化への取り組み機運などを学んでもらうための論語講座も開催し、これに引き続いてのプラン発表準備で、講師に鳥越氏にも入ってもらい、『各プランがどのように構想されてきたのか』、『主体者の存在やその想いは何か』、『どの部分が事業化につながり、竹田市の中心市街地の活性化にどのように寄与するのか』など、発表の際のポイントになってくる視点などを整理し、それぞれの発表の位置づけや関連性などをどのように伝えるのかを再考察できた。

その後も、第6回での最終発表に向けて、さらに商人塾外でも会議などを進め、よりよいプラン発表を迎える準備などをしていったことが発表者のスキルアップと、内容の充実につながった。

第6回では、(株)全国商店街支援センターの桑島社長にも同席いただき、岩村田商店街の阿部理事長を講師・コメンテーターとして呼びして、全5ビジョン・プランの公開発表会をした。

それぞれの発表は、単に今までの取り組みや成果などの発表にとどまらず、竹田市中心市街地との関連性や事業効果、具体的な取り組みの提言などもしっかりと盛り込まれ、当初の計画で求めていた実践的な取り組みにつながる研究発表になった。

今後の竹田市の中心市街地活性化にも活かせる発表内容にしたことで、行政・関係者も含め大勢の市民に参加してもらうことができ、そこでの発表・提言ができたことは大変に意義深かった。

発表後の阿部理事長からのアドバイスの中で、次の段階は、横軸で出された色々な事業を実践していくために、時系列や優先度など縦軸に置き換えながら進めていくことが肝心という言葉いただき、塾生の大きいなる喚起になった。

全体を通して、個店の取り組み事例よりは、今後、重要性を増してくる竹田市中心市街地活性化の計画策定の中で、地元事業者がどのように積極的に関与していくのかを事業者目線で考えるというものになったが、各地の中活計画策定の中で、民間の取り組みがなかなか見えてこないという街に比較すると、大変に充実した計画づくりに活かせる民間事業者の考察機会になった。

第5回商人塾では、延期になっていた商人としての精神性、地域活性化への取り組み機運などを学んでもらうための論語講座も開催し、これに引き続いてのプラン発表準備で、講師に鳥越アドバイザーにも入ってもらい、発表の際のポイントになってくる視点などを整理し、それぞれの発表の位置づけや関連性などをどのように伝えるのかを再考察できた。

その後も、第6回での最終発表に向けて、さらに商人塾外でも会議などを進め、よりよいプラン発表を迎える準備などをしていったことが発表者のスキルアップと、内容の充実につながったと思われる。

第6回では、全国商店街支援センターの桑島社長にも同席いただき、岩村田商店街の阿部理事長を講師・コメンテーターとして呼び出して、全5ビジョン・プランの公開発表会をした。

それぞれの発表は、単に今までの取り組みや成果などの発表にとどまらず、竹田市中心市街地との関連性や事業効果、具体的な取り組みの提言などもしっかりと盛り込まれ、当初の計画で求めていた実践的な取り組みにつながる研究発表になったと考えている。

今後の竹田市の中心市街地活性化にも活かせる発表内容にしたことで、行政・関係者も含め大勢の市民に参加してもらうことができ、そこでの発表・提言ができたことは大変に意義深かったと思う。

発表後の阿部理事長からのアドバイスの中で、次の段階は、横軸で出された色々な事業を実践していくために、時系列や優先度など縦軸に置き換えながら進めていくことが肝心という言葉をいただき、塾生の大いなる喚起になったと思う。

全体を通して、個店の取り組み事例よりは、今後、重要性を増してくる竹田市中心市街地活性化の計画策定の中で、地元事業者がどのように積極的に関与していくのかを事業者目線で考えるというものになったが、各地の中活計画策定の中で、民間の取り組みがなかなか見えてこないという街に比較すると、大変に充実した計画づくりに活かせる民間事業者の考察機会になったと思う。

(3) 実施機関の総括（成果や新たな課題、今後の活動方針等）

竹田商工会議所としては、本商人塾の取り組みを実施したことで、竹田市中心市街地における今後の地域活性化の取り組みが、民間商業者の視点、手法を活かしながら展開できる期待が大いに高まった。

前半の各地での取り組みの事例の研究（商店街事業・まちづくり会社事業）では各ビジョン・プランの実践的事業のイメージを持つことができ、後半の自分たちでの今後の事業展開を考える際に、どのような事柄やテーマが、竹田市民のイメージとして捉えられているのかを再確認することができ、プランや事業構想の中に取り込むべきもの、側面に置いておくものなどの考察において、取捨選択に大きく役立った。

塾生も日常の事業でなどで忙しい中、時間をさいて参加してもらい、各回、講師の設定やテーマについて、商人塾開講時にコーディネーターから確認してもらい、それらを認識した上で受講してもらえた。

成果として、竹田市の中心市街地活性化計画に活かせる民間事業の基礎となる、事業や組織、主体者などが見えてきたことが非常に大きく、第6回での公開発表・提言を取りまとめる間にそれぞれのリーダーの育成も進んだと考えられる。

特に当初、本事業を推進する際には、可能性のあるプランや事業構想などは複数持ち上がっていたが、この商人塾での検証を進めていく中で、それらのプランを市民に対して正式に発表し、また事業構想を練っていく中心的な人物を発表者として据えることができ、『主体者が見えれば事業が進む』という地域活性化の一番重要な要素を確立することができた。

今後は、これらの事業の実質的な取り組みに向けて、優先順位やスケジュール感を持ち、市の計画との連携をしながら、またアーティストや商店街での若手リーダーとの情報共有を進めながら、実践することを主体とした取り組みを進めていきたい。

(4) 参加者（塾生）の感想・今後の意気込み等

・全6回を通して商店街のあり方等を勉強することができた。6回を通して得た物を今回参加していない商店へ還元していき商店街全体の気運を上げていきたい。

・6回目において様々なプランの発表や講師の方の意見を聞き、自分の得意な分野だけではなくまわりにも目線に向けていかなければならないと感じた。

・様々な観光資源（アート・祭り・論語等）を活用し、また阿部氏もおっしゃっていたアピールするには重い物を今後どれだけ生かし活用できるか検討していきたい。

・参加者、特に今回の発表に向けてのとりまとめ作業などをした各リーダーなどは、改めて自分たちの注目している竹田の特性を活かした事業が、まちの活性化につながる事業にしていくことができる可能性を見出すことができたという思いを持った。

また参加者たちは、今回の商人塾への参加、研修などを通じて、改めて竹田の持つポテンシャルを確認でき、それらを活かすことが竹田や自分たちの事業へ貢献していくということを認識できたと考えている。

今後は、各ビジョン・プラン提言などを実践していくためのスケジュール感のある行動を起こしていく予定である。

（５） その他（成果物・報告事項等）



平成 26 年度 商人塾支援事業

委託元：株式会社全国商店街支援センター

〒104-0043

住所：東京都中央区湊 1-6-11 八丁堀エスワンビル 4 階

TEL：03-6228-3061